

資源ごみの分別収集にご協力をお願いします

資源ごみの分別収集が始まってから今年で3年目を迎えますが、ごみの収集量を昨年と比べると資源ごみが少なくなり、逆に燃えるごみが増えてきているようです。

その原因の1つとして、燃えるごみの中にペットボトルや食品トレイなどの資源ごみが混ざって出されているようで、ごみを収集する業者の方も「以前と比べると(資源ごみが)多くなっている。」と指摘しています。

資源ごみを燃えるごみとして出せば、洗浄などの面倒くさい作業がないので確かに楽になりますが、安易に燃やして灰にするより、リサイクルすることで別の製品の原料や燃料として生まれ変わるため資源を有効に活用することになります。

(単位:kg)

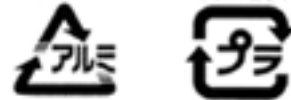
月	ごみの区分	平成14年度の 収集量	平成15年度の 収集量	比 較
4 月	燃えるごみ	72,340	68,390	-3,950
	燃えないごみ	3,580	2,970	-610
	資源ごみ	12,390	16,150	3,760
5 月	燃えるごみ	68,920	74,890	5,970
	燃えないごみ	2,040	1,730	-310
	資源ごみ	21,440	13,630	-7,810
6 月	燃えるごみ	53,330	66,470	13,140
	燃えないごみ	1,620	2,480	860
	資源ごみ	20,120	12,180	-7,940
7 月	燃えるごみ	67,560	80,810	13,250
	燃えないごみ	2,030	2,960	930
	資源ごみ	17,110	20,900	3,790
8 月	燃えるごみ	71,110	76,840	5,730
	燃えないごみ	3,290	5,760	2,470
	資源ごみ	21,030	19,180	-1,850

識別マーク

PETボトル スチール缶 紙製容器包装



アルミ缶 プラスチック製
容器包装



平均すると燃えるごみが一月当たり約7トンの増加、資源ごみが一月当たり約2トンの減少となっています。また、不燃ごみを含むごみ全体の排出量も月平均で約5トン増加しています。

保健師メモ

インフルエンザを 予防しましょう。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスが体内に入ることによって起こる感染症です。軽いものはふつうのかぜ(感冒)との区別がつきにくいのですが、抵抗力が弱い高齢者や乳幼児などが感染すると、症状が重くなり、気管支炎、肺炎等の合併症を起こして死亡する場合もあります。

インフルエンザは気温が低く、空気が乾燥する冬の時期に流行します。悪寒や頭痛などの初期症状がありその後、38℃40度の発熱、倦怠感、関節痛、筋肉痛などの症状のほか、のどの痛み、鼻汁等の症状もみられます。

インフルエンザを予防するためには

- ①十分な栄養と睡眠をとり抵抗力を高める。
- ②手洗い・うがいをする。
- ③必要時以外は人ごみをさける。

る。(マスクを着用する。)

④保温、保湿を心がける。(ストーブにはやかんをかけたり、加湿器を利用したりして湿度を60～70%に保つ。)

⑤予防接種を受ける

いつもと違うかなと感じたら早めに医療機関で受診しましょう。

もしかかってしまったら、脱水症状に気をつけ十分な栄養、水分、睡眠をとり、保温、保湿に心がけましょう。

また本町では65歳以上の高齢者を対象に、インフルエンザの予防接種を平成15年10月14日(火)～12月31日(水)まで実施します。希望される方は、予防接種を受けてください。

〔詳細につきましては〕

町役場保健衛生課衛生係
(☎57-11111 内線255)

